講義コード	M210100101	科目ナンバリング	121F101
講義名	◆経済数学特論Ⅰ（学部:経済数学（上級Ⅰ））（大学院）		
副題	-静学最適化問題-		
英文科目名	Advanced Course: Mathematics for Economics Ⅰ		
担当者名	神戸　伸輔		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 北1－302		

授業概要

経済学の専門論文を読むために必要な数学的手法を分かりやすく解説する。ゼミで理論的な論文を読んだりあるいは調査系の職に就きたい場合には、ぜひ履修してほしい。また、大学院で経済学を研究する上で欠かせない手法を学ぶので、大学院生および将来進学を考えている人には、履修することを強く薦める。具体的には、ミクロ経済学およびマクロ経済学の理論的な基礎となる最適化の手法を学ぶ。経済数学特論I（経済数学上級I）では静学最適化を扱い、経済数学特論II（経済数学（上級II）では動学最適化を扱う。

到達目標

経済学の専門論文を読むために必要な数学的手法を理解し、自分で使えるようになる。到達目標は博士前期課程と博士後期課程の大学院生とで同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	序. 基礎定理と凸分析
第2回	解析の基礎定理
第3回	凸集合と凹関数
第4回	凹関数の性質
第5回	1. 古典的方法
第6回	古典的方法の応用
第7回	包絡面の定理
第8回	2. ラグランジュ乗数法
第9回	ラグランジュ乗数の解釈
第10回	3. 非線形計画法
第11回	クーン・タッカー条件の意味と制約想定
第12回	クーン・タッカー条件に関する定理
第13回	クーン・タッカー条件を使った解法
第14回	クーン・タッカー条件の証明
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

数学については経済学部で開講されている「経済数学」を履修していること（あるいはそれと同水準の数学力を持っていること）のみを要求し、必要な部分は解説する。この講義は大学院と学部の共通講義である。

授業方法

講義により行い、適宜宿題を課す。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

授業のノートを読み返し、宿題に回答する（1時間30分）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	宿題およびクラスへの参加により評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価は博士前期課程と博士後期課程の大学院生とで変わらない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

宿題に関しては、授業中に解説する。期末試験の略解はWEBサイトを通して伝える。

参考文献

経済学のための最適化理論入門,西村清彦,東京大学出版会,1990,4130420372
経済学・経営学のための数学,岡田　章,東洋経済新報社,2001,4492312986

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210101101	科目ナンバリング	121F102
講義名	◆経済数学特論Ⅱ（学部：経済数学（上級Ⅱ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: Mathematics for Economics Ⅱ		
担当者名	河重　隆一郎		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西2－305		

授業概要

経済学の上級テキストを読むために必要な数学的手法を分かりやすく解説する。ゼミで理論的な文献を読んだりあるいは調査系の職に就きたい場合には、ぜひ履修してほしい。また、大学院で経済学を研究する上で欠かせない手法を学ぶので、大学院生および将来進学を考えている人には、履修することを強く薦める。
具体的には動学最適化問題をあつかう。これは、一定の時間経過のなかでその期間全体を通じた最適化を考える数学的手法であり、経済数学特論I(学部: 経済数学上級I)で学習した静学最適化問題による、ある瞬間の最適化とは問題の性質が異なる。

到達目標

経済学の上級テキストを読むために必要な数学的手法を理解し、自分で使えるようになる。
なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	基本事項の復習(微分積分の復習)
第3回	動学最適化問題の概要
第4回	変分法の基本問題(1)
第5回	変分法の基本問題(2)
第6回	可動的終点のための横断性条件
第7回	2階条件
第8回	制約条件付き問題
第9回	最適制御: 最大値原理(1)
第10回	最適制御: 最大値原理(2)
第11回	最適制御の一層の考察(1)
第12回	最適制御の一層の考察(2)
第13回	制約条件付き最適制御(1)
第14回	制約条件付き最適制御(2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

受講者と相談のうえ、授業計画を変更する可能性がある。
数学については経済数学を履修していることのみを要求し、必要な部分は解説する。

授業方法

教員の講義および事前に宿題として指示をした演習問題を受講者によって発表してもらい解答を検討することを組み合わせて行う。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

前回の授業で指示した項目の予習をしたうえで次の授業に臨むこと（30分～90分）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

大学院博士後期課程の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

教科書の演習問題を課題として課す。解答と解説は課題を提出した日の授業で解説を行う。

教科書

動学的最適化の基礎,A・C・チャン,シーエーピー出版,1,2006,978-4916092779

参考文献

経済数学 --基礎と応用--,ウィリアム・ノヴシェク著　奥口孝二・小林信二訳,多賀出版,1,1996,978-4811541914

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210102101	科目ナンバリング	121F135
講義名	◆ミクロ経済学特論Ⅰ（学部:ミクロ経済学（上級Ⅰ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: Microeconomics Ⅰ		
担当者名	清水　大昌		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 東2－104		

授業概要

大学院の授業を理解する上で必要となることであろうミクロ経済学の基本モデルを学ぶ。具体的には、学部初級・中級レベルの授業ではモデル上の仮定としておいた様々な条件の妥当性やミクロ経済学的意味を掘り下げ、ミクロ経済学の主張と限界について理解を深めていく。本講義では基本的に(第12回の一部と14回を除いて)ゲーム理論的発想を含まないミクロ経済学の理論を紹介する。それを含む講義はミクロ経済学(上級I)で次年度行う予定である。

到達目標

修士課程1年目に標準に扱うミクロ経済学理論を理解し、紹介された様々なモデルを使った問題を解けるようになること。なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	記号論理学と証明方法について
第3回	公理と定理などの違いについて
第4回	消費者理論:選好と顕示選好の公理
第5回	序数的効用関数、効用最大化、ロワの恒等式
第6回	支出最小化とマッケンジーの補題
第7回	スルツキー方程式と等価変分・補償変分
第8回	期待効用理論
第9回	生産者理論:費用最小化問題とシェパードの補題
第10回	CES生産関数、利潤最大化問題とホテリングの補題
第11回	純粋交換経済とワルラス均衡、公共財供給
第12回	部分均衡分析と製品差別化
第13回	社会選択理論とアローの不可能性定理
第14回	ナッシュ交渉解
第15回	講義の総括と復習

授業方法

講義を行います。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

予習は特に課しませんが、必要に応じて行ってください。【br】復習は、授業内容を理解し、課された問題を解いてください。(約30～90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	75 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点（クラス参加、グループ作業の成果等）:25%（講義内での発言を重視する。）レポート:75%（期末レポートにより理解度を確認します。）この科目は、学部3-4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院生と同様に行う。また、大学院博士後期課程の成績評価は大学院前期課程の大学院生と同じである。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

最終レポートはコメントを付与の上返却します。

教科書コメント

特にありません。

参考文献コメント

特にありませんが、ミクロ経済学の教科書をいくつか初回に紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210105101	科目ナンバリング	121F104
講義名	◆マクロ経済学特論Ⅱ（学部：マクロ経済学（上級Ⅱ））（大学院）		
副題	景気循環論の諸類型		
英文科目名	Advanced Course: Macroeconomics Ⅱ		
担当者名	宮川　努		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 中央－403		

授業概要
本講義では、ケインズ経済学からニュー・ケインジアン・エコノミクスに至るまでの様々な景気循環論について解説する。

到達目標
各景気循環モデルの特徴を的確に把握し、その違いが短期の政策インプリケーションの違いにどのように関係しているかを理解すること。なお、大学院博士後期課程の大学院生の到達目標は、大学院博士前期課程の大学院生の到達目標と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進め方の説明
第2回	伝統的なケインズモデルに中央銀行の金利操作モデルを加えたモデルの解説
第3回	フィリップス曲線
第4回	総需要曲線と総供給曲線
第5回	マクロモデルの動学的特性
第6回	Dornbusch model
第7回	労働市場の不完全性に関する議論
第8回	Lucas modelの枠組み
第9回	Lucas modelの政策的インプリケーション
第10回	New Keynsian modelの基礎
第11回	動学的New Keynsian model
第12回	消費理論
第13回	投資理論
第14回	投資理論の実証的応用
第15回	授業の総括

授業方法
講義形式

使用言語
日本語

準備学習（予習・復習）
第1回目の授業で、それ以降の授業内容が教科書のどの部分に対応するかについて述べるので、各授業の前に1時間程度該当する部分を予習すること。また数学ツールに関する宿題も出すので、これについては翌週提出すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	30 %	宿題の提出
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント
試験は、授業全般の理解力について評価する。レポートは、授業で利用する数学的ツールの理解力について評価する。平常点は、出席を重視する。授業内容が多岐にわたるので、できるだけ出席しなければ、授業後半の部分が理解できなくなるからである。なお、大学院博士後期課程の大学院生の成績評価は、大学院博士前期課程の大学院生の成績評価と同じである。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
主に数学ツールの理解に関する宿題を出すが、この提出は、原則として宿題が出された週の翌週である。この宿題については採点の上、さらに次の週に返却する。

教科書
上級マクロ経済学,デビット・ローマー,日本評論社,第3,2010,978-4-535-55493-1

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210107101	科目ナンバリング	121F106
講義名	◆ゲーム理論特論Ⅱ(学部:ゲーム理論(上級Ⅱ))(大学院)		
英文科目名	Advanced Course: Game Theory Ⅱ		
担当者名	和光　純		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 西2－205		

授業概要

大学院レベルで用いられる、ゲーム理論の基礎的概念と応用手法を習得する。

到達目標

修士論文・博士論文等でゲーム理論的分析を用いる際に、自分で簡単なゲームモデルが構築できるようにする。なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ギボンズ1章:完備情報の静学ゲームの概念
第3回	ギボンズ1章:完備情報の静学ゲームの応用
第4回	ギボンズ2章:完備情報の動学ゲームの概念
第5回	ギボンズ2章:完備情報の動学ゲームの応用
第6回	ギボンズ3章:不完備情報の静学ゲームの概念
第7回	ギボンズ3章:不完備情報の静学ゲームの応用
第8回	ギボンズ4章:不完備情報の動学ゲームの概念
第9回	ギボンズ4章:不完備情報の動学ゲームの応用
第10回	有限回・無限回繰り返しゲームとフォーク定理
第11回	オークションの基礎理論:第1価格入札・第2価格入札
第12回	オークションの基礎理論:収入等価定理
第13回	マッチングの基礎理論:安定マッチング
第14回	マッチングの基礎理論:Deferred Acceptance Algorithm
第15回	まとめ

授業方法

ギボンズの教科書『経済学のためのゲーム理論入門』を読み進めゲーム理論の基礎を学習する。その後、学んだツールを使い、さまざまなトピックに応用していく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に上記図書の該当箇所を十分に読み、予習しておくこと(2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業中の議論への参加も考慮して評価する。積極性を重視する。期末試験は、レポートに変える可能性もある。事前に説明する。大学院博士後期課程の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポート問題の解答・解説をWebClass等の学内情報ネットワークを利用して行う。

参考文献

Game Theory for Applied Economists,Robert Gibbons,Princeton,1992,0691003955

経済学のためのゲーム理論入門,ロバート ギボンズ,創文社,1995,442385080X

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210108101	科目ナンバリング	121F107
講義名	◆計量経済学特論Ⅰ（学部：計量経済学（上級Ⅰ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: Econometrics Ⅰ		
担当者名	赤司　健太郎		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 土曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

計量経済学における大学院レベルの洋書を輪読し、実証分析でしばしば用いられるGMMを中心に議論する。練習問題を解かせる場合があるので、学部「計量経済学」履修済みを前提とした統計的及び数理的知識を必要とする。

到達目標

GMM等による実証論文の理論的背景を理解する。なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction
第2回	The Classical Linear Regression Model
第3回	Hypothesis testiong under Normality
第4回	Relation to Maximum Likelihood
第5回	Generalized Least Squares (GLS)
第6回	Large-Sample Theory 1
第7回	Large-Sample Theory 2
第8回	Application: Rational Expectaitions Econometrics
第9回	Single-Equation GMM
第10回	Endogeneity Bias
第11回	Large-Sample Properties of GMM
第12回	Testing Overidentifying Restrictions
第13回	Implications of Conditional Homoskedasticity
第14回	Application: Returns from Schooling
第15回	Summary

授業方法

受講生によるレジメを用いた輪読発表

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に輪読の担当箇所を熟読しておくこと(約60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	レジメの評価

成績評価コメント

大学院博士後期課程の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

発表中心なので、その都度コメントを行う。

教科書

Econometrics,Hayashi, F.,2000

履修上の注意

履修者数制限あり。 ／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

学部選択必修科目の「計量経済学」を履修済みであること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210109101	科目ナンバリング	121F108
講義名	◆計量経済学特論Ⅱ（学部：計量経済学（上級Ⅱ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: Econometrics Ⅱ		
担当者名	田中　勝人		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 西1－203		

授業概要

計量経済学のいくつかのトピックを取り上げて、その理論と実際について説明する。現実の経済データを使った分析については、計量ソフトEViewsを使って実習を行う。

到達目標

一般のエコノミストレベルの実証分析ができるようになることを目標とする。なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス（授業の進め方、内容の紹介、ソフトの紹介など）
第2回	回帰分析－古典的な場合
第3回	回帰分析－一般的な場合
第4回	ダミー変数と質的変数
第5回	ロジット分析とプロビット分析－理論
第6回	ロジット分析とプロビット分析－応用
第7回	パネルデータの分析－理論
第8回	パネルデータの分析－応用
第9回	時系列分析
第10回	単位根検定－応用
第11回	共和分検定と誤差修正モデル
第12回	インパルス応答分析
第13回	実証分析の内容発表
第14回	まとめ
第15回	理解度の確認

授業方法

ダウンロード可能な授業資料に基づいて進める。適宜、計量ソフト EViews を使った説明と実習を行う。実際の経済データを使った実証分析を課題とする。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に授業に関連した資料などを読んで予習する（約1時間）.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

大学院博士後期課程の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

レポートや小テストの解答に対して、個々にコメントする。

教科書コメント

教科書は使用しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考文献コメント

授業内容に合わせて適宜紹介する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)

その他

人数によっては履修者を制限することもある。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210110101	科目ナンバリング	121F110
講義名	◆国際経済学特論Ⅰ（学部：国際経済学（上級Ⅰ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: International Economics Ⅰ		
担当者名	椋 寛		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 東2－101		

授業概要

中～上級レベルの国際貿易論のテキストの輪読を通じて、論文執筆のための問題意識と分析能力を養うことを目的とする。

到達目標

大学院初級レベル（学部上級レベル）の国際貿易論の理論と実証の手法を身につけることができるようになる。到達目標は博士前期課程と博士後期課程の大学院生とで同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義のガイダンスと報告の割り当て
第2回	序章　新々貿易理論への招待
第3回	第1章　貿易の決定要因（その1）
第4回	第1章　貿易の決定要因（その2）
第5回	第2章　産業内貿易（その1）
第6回	第2章　産業内貿易（その2）
第7回	第3章　企業の生産性と海外展開（その1）
第8回	第3章　企業の生産性と海外展開（その2）
第9回	第4章　貿易の効果（その1）
第10回	第4章　貿易の効果（その2）
第11回	第5章　貿易政策の基礎（その1）
第12回	第5章　貿易政策の基礎（その2）
第13回	第6章　貿易政策の応用（その1）
第14回	第6章　貿易政策の応用（その2）
第15回	まとめ

授業方法

テキストの輪読形式を取る。受講者は割り当てられた章を報告する義務があり、報告内容を踏まえて全体で議論する。発言が無い場合はこちらから指名の上、発言を求める。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

毎週テキストの該当箇所を読んでくること（約2時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	出席・報告・議論の内容に応じて得点をつける。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価は博士前期課程と博士後期課程の大学院生とで変わらない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

受講者の報告が中心であるため、報告時に適時コメントする。提出されたレポートにコメントし、返却する。

教科書

実証から学ぶ国際経済,清田耕造・神事直人,有斐閣,2017,9784641165175

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

上級のミクロ経済学の知識や産業組織論の知識、微分・積分の基礎知識を前提とする。国際貿易論の分野で論文を執筆予定であることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210112101	科目ナンバリング	121F111
講義名	◆日本経済史特論Ⅰ（学部：日本経済史（上級Ⅰ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: History of the Japanese Economy Ⅰ		
担当者名	石井　晋		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西2－205		

授業概要

日本経済史に関する文献(日本語または英語)に関する解説と輪読。 今年度は、生産システムやイノベーションを中心に取り上げる予定。

到達目標

日本経済史に関する先行研究を正しく評価できるようにする。
この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	論文の解説と輪読(1)
第3回	論文の解説と輪読(2)
第4回	論文の解説と輪読(3)
第5回	論文の解説と輪読(4)
第6回	論文の解説と輪読(5)
第7回	論文の解説と輪読(6)
第8回	論文の解説と輪読(7)
第9回	論文の解説と輪読(8)
第10回	論文の解説と輪読(9)
第11回	論文の解説と輪読(10)
第12回	論文の解説と輪読(11)
第13回	論文の解説と輪読(12)
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業計画コメント

参加者と相談しながらテキストを決める。

授業方法

輪読

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に必ずテキストを読み、自分の理解をまとめておくこと。(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	研究意欲

成績評価コメント

この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

毎回の授業でフィードバックをする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

意欲的な大学院生および将来の大学院進学を強く希望する学部生を対象とする。研究意欲のない者の履修は認めない。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210116101	科目ナンバリング	121F115
講義名	◆産業組織論特論Ⅰ（学部：産業組織論（上級Ⅰ））（大学院）		
副題	洋書で学ぶ産業組織論		
英文科目名	Advanced Course: Industrial Organization Ⅰ		
担当者名	西村　淳一		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 東2－702		

授業概要

産業組織論に関する入門レベルの洋書の輪読を行う。授業では報告テーマに関するディスカッションを行い、例題も解いていくことで、実践力を養っていく。

到達目標

受講者が産業組織論に関する理論的な知識と基本的な実証分析の手法について習得することを目標とする。この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。博士後期課程の大学院生の到達目標も博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction to industrial organization
第2回	Consumers
第3回	Firms
第4回	Competition, equilibrium, and efficiency
第5回	Market failure and public policy
第6回	Price discrimination
第7回	Games and strategies
第8回	Oligopoly
第9回	Collusion and price wars
第10回	Market structure
第11回	Horizontal mergers
第12回	Market foreclosure
第13回	Vertical relations
第14回	Product differentiation
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

テキストの内容は入門向けなので、より高度な理論分析に関する数学的展開や実証分析については適宜説明する。
授業計画は暫定的であり、受講者と相談しつつトピックを決めていく。

授業方法

輪読と講義形式にて行う。報告内容について参加者によるディスカッションを行う。
また、関連する例題を出し、学生自ら考える機会を設ける。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

各自、テキストを事前に読み、疑問点をメモしておくこと（約3時間）。
報告者は報告資料を作成すること（約2時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。博士後期課程の大学院生の成績評価も博士前期課程の大学院生と同様に行う。

無断欠席は認めない。

授業では活発に議論に参加する学生に高い評価をつける。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

小テストは授業時間中に解説する。
参加者によるディスカッションを行い、適宜、議論内容についてコメントを行う。

教科書コメント

ガイダンスにて提示する。

参考文献コメント

ガイダンスにて提示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210119101	科目ナンバリング	121F118
講義名	◆日本経済論特論Ⅱ(学部:日本経済論(上級Ⅱ))(大学院)		
英文科目名	Advanced Course: Japanese Economy Ⅱ		
担当者名	滝澤　美帆		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西1－212		

授業概要

日本経済はバブル崩壊以降長期の経済停滞に陥っている。経済停滞の要因の解明に関連する様々な研究を紹介する。その際に必要となる経済理論や分析手法についても説明する。

到達目標

・成長会計の方法を説明できる
・資源配分の効率性の計測方法を説明できる
・日本の経済停滞の要因について説明できる
なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション～授業の進め方、
第2回	データで見る日本経済
第3回	日本産業生産性(JIP)データベースの説明
第4回	産業レベルデータを使った成長会計分析の方法
第5回	産業レベルの資源配分効率
第6回	資本に体化された技術進歩と新規投資
第7回	組織資本の定量的評価
第8回	規制緩和と産業のパフォーマンス
第9回	参入・退出
第10回	産業の新陳代謝機能
第11回	新規参入企業の生産性と資金調達
第12回	貿易・生産構造の変化と企業間格差
第13回	海外進出・生産委託の影響
第14回	まとめ:停滞脱出への方策
第15回	理解度の確認

授業方法

講義と受講者による発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前学習:次回の講義内容に関する資料を予習すること(1時間～)
事後学習:講義した内容に関して復習をし、不明な点を明らかにすることお(1時間～)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義への参加度(50%)と試験(50%)により評価する。
大学院博士後期課程の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については、その都度解説をする。

教科書

生産性と日本の経済成長－JIPデータベースによる産業・企業レベルの実証分析,深尾 京司、宮川 努(編),東京大学出版会 ,2008,978-4-13-040237-8

教科書コメント

読むべき資料については教員からその都度指示する。

履修上の注意

★マクロ経済学（基礎マクロだけでなくより上級のマクロも）、計量経済学、統計学を履修済みであること。
★経済数学で学んだ内容を十分理解していること。
★成績評価は学部生と大学院生は同じものとする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210122101	科目ナンバリング	121F121
講義名	◆統計学特論Ⅰ（学部：統計学（上級1））（大学院）		
副題	Statistical causal inference		
英文科目名	Advanced Course: Statistics Ⅰ		
担当者名	福地　純一郎		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2－505		

授業概要

計量経済学の複数のトピック(Quantile regression, Panel data model, Synhtetic control など)を選び、それにらに関する英語のテキストを輪読し、問題演習を行う。

到達目標

英語テキストを読み、計量経済学の統計学的側面について学ぶ。扱う統計的手法を理解できるようになることが目的である。到達目標は博士前期課程と博士後期課程の大学院生とで同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Regression models
第3回	Quantile regression
第4回	Quantile regression
第5回	Panel data model
第6回	Panel data model
第7回	Synthetic control method
第8回	Synthetic control method
第9回	Synthetic control method
第10回	Causal inference
第11回	Causal inference
第12回	Conformal prediction
第13回	Conformal prediction
第14回	Conformal prediction
第15回	まとめ

授業方法

大学院生による輪読で進める。宿題を解き、解説する。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

線形代数および微分積分（広義積分、重積分と変数変換公式）の十分な知識を前提として授業を行う。統計学の基礎知識（確率変数、確率分布、推定、仮説検定、正規分布、カイ2乗分布、t分布、回帰分析等）を前提とするので、事前に復習をしておくこと。指定した下論文を事前に読んでおくこと。授業時間外に約120～240分の準備が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	課題

成績評価コメント

成績評価は博士前期課程と博士後期課程の大学院生とで変わらない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

小テストおよび課題についてサジェスチョンと評価を書き返却する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210124101	科目ナンバリング	121F123
講義名	◆労働経済学特論Ⅰ（学部：労働経済学（上級Ⅰ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: Labor Economics Ⅰ		
担当者名	脇坂　明		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 北1－406		

授業概要

労働経済学の専門的内容を大学院生と熱心な学部生とともに勉強し、国内外の研究の基礎を理解します。

到達目標

労働や組織について理解し、自らの意見を持ち、自分の言葉で説明できるようになる。
なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	労働経済学研究の概観
第2回	雇用と失業
第3回	ワークシェアリングのタイプ
第4回	高齢者雇用
第5回	労働時間と労働供給モデル
第6回	労働時間と生活時間のバランス
第7回	ワーク・ライフ・バランス（WLB）施策の効果
第8回	WLB施策の課題
第9回	ダイヴァーシテイと障害者雇用
第10回	女性の労働供給
第11回	女性雇用管理
第12回	若年労働とフリーター
第13回	少子化と労働力人口
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究

授業方法

テーマによって、ブリーフィングのあと議論する場合と、履修者各自に指示する文献を読んできて、報告と議論をおこなう場合があります。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に指示した文献を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期（学期末試験）：100％（授業での発表と発言）
大学院博士後期課程の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、資料配布等を行う。

教科書

労働供給の経済学：叢書：働くこと,三谷直紀編著,ミネルヴァ書房,2008

教科書コメント

叢書シリーズの別の巻の論文を読むすすめます。

参考文献

労働経済学入門,脇坂明,日本評論社,2011

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。「労働経済学」単位履修者がよいが、もし未履修の場合でも、労働経済学の基礎知識を前提とします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210126101	科目ナンバリング	121F125
講義名	◆社会保障論特論Ⅰ（学部：社会保障論（上級Ⅰ））（大学院）		
副題	社会保障に関する論文指導		
英文科目名	Advanced Course: Social Security Ⅰ		
担当者名	鈴木　亘		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 北1－405		

授業概要

社会保障に関する分野で、修士論文や博士論文を執筆しようとしている学生の論文指導を行う。書こうとする論文に関連する文献を読んだり、論文執筆に必要なスキル、ノウハウを指導したりする。

到達目標

社会保障に関する分野で、修士論文、博士論文（学部生の場合には、卒業論文、ゼミ論文）を執筆する。この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明、今後のスケジュールの確認
第2回	論文指導、関連文献の輪読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	論文発表、論文指導
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃

授業計画コメント

論文指導がメインであるので、ペースや内容については、受講者と相談しながら決める。

授業方法

受講者が交代で、関連論文や執筆中の論文の発表を行う。レジュメを作成してそれをもとに説明をしてもらう。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

発表者はレジュメを基に説明してもらうので、関連論文を読みこんで、レジュメを作成すること（約1時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	クラスの参加状況などから総合勘案する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点（クラス参加、グループ作業の成果等）：50％（レジュメを作っての発表や、ディスカッションへの貢献度を評価する） 積極的な発言、議論への参加を期待する レポート：50％（執筆予定の論文、もしくは執筆計画を提出してもらう）
この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

授業中に講評を行う。

参考文献コメント

特に無し

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

計量経済学（特にミクロ計量経済学）、ミクロ経済学（価格理論、ゲーム理論、契約理論）はコースワーク程度の知識を持っていること。また、学部の社会保障論、福祉関係科目（経済学特殊講義(貧困地域再生の経済学)）程度の制度の知識を有している必要がある。必要に応じて、大学院生でも学部の授業を取っておくこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210128101	科目ナンバリング	121F127
講義名	◆公共経済学特論Ⅰ（学部：公共経済学（上級Ⅰ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: Public Economics Ⅰ		
担当者名	三井　清		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2－304		

授業概要

公共プロジェクトの評価手法である費用・便益分析について学ぶ。

到達目標

費用・便益分析の基礎的な理論を理解するとともに、その理論を用いた実際の政策評価事例についても理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	費用便益分析(Cost-Benefit Analysis or CBA)への入門
第2回	CBAの基礎1：消費者余剰と補償変分・等価変分
第3回	CBAの基礎2：仮説的補償原理とマスグレイブ主義政策論
第4回	CBAの基礎3：プロジェクトの採否基準
第5回	プライマリー・マーケットにおけるCBA
第6回	セカンダリー・マーケットにおけるCBA
第7回	不確実性の処理（期待値、感度分析、情報の価値）
第8回	顕示選好法1：市場類似法
第9回	顕示選好法2：トラベルコスト法と環境質改善の便益評価
第10回	顕示選好法3：ヘドニック価格法と過大評価定理
第11回	顕示選好法4：仮想評価法（CVM）
第12回	費用便益分析のマニュアル：事例の紹介と検討1
第13回	費用便益分析のマニュアル：事例の紹介と検討2
第14回	公的資金の限界費用とランダム効用理論
第15回	まとめ

授業方法

基本的な質問をすることで理解度を確認しながら講義する。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に配布された資料を読んでおく（約30分）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院生と同様に行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

平常点は最後の講義のときに伝える。

参考文献

【i】Cost-Benefit Analysis【/i】,Boardman, Anthony E. et al.,Prentice Hall,4nd Edition,2018

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210132101	科目ナンバリング	121F131
講義名	◆一般経済史特論Ⅰ（学部：一般経済史（上級Ⅰ））（大学院）		
英文科目名	Advanced Course: General Economic History Ⅰ		
担当者名	眞嶋 史叙		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

大学院生が経済史の既往文献の内容を自ら的確に評価できるよう、時代性・専門性の双方を視野に入れて理解を深めていくことを授業の目的としていますが、大学院レベルについていけるような一部の優秀な学部生が受講することも可能です。学部生の場合は、一般経済史を既に良い成績で修得していること、もしくは本年度同時に履修し好成績を残す自信があることが受講条件です。一般経済史の講義内容をグローバルな視点からより深く理解するために、対応する多くの文献（英語の学術論文を含む）を読み、受講生が交代でプレゼンテーションおよびディベートを行っていきます。また、レポート執筆指導も随時行っていくことにより、大学院レベルで必要な文章表現力も養成していきます。歴史的なケーススタディを用いながら、経済的な意思決定プロセスの選択肢を吟味し、それぞれ経済学的見地の長所短所を明らかにしていく能力を身につけることが主な狙いです。

到達目標

既往文献の内容を理解し、的確な評価を与えられるようになります。なお、大学院博士後期課程の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じです。

授業内容

実施回	内容
第1回	Methods of Global Economic History
第2回	The Industrial Revolution and the pre-industrial economy
第3回	The high-wage economy of pre-industrial Britain
第4回	The agricultural revolution
第5回	The cheap energy economy
第6回	Why England succeeded
第7回	Why was the Industrial Revolution British?
第8回	The steam engine
第9回	Cotton
第10回	Coke smelting
第11回	Inventors, Enlightenment and human capital
第12回	From Industrial Revolution to modern economic growth
第13回	Collective Invention
第14回	データ収集・分析方法に関する指導（統計資料の利用法・ExcelおよびSPSSの使用法の指導）
第15回	学期末レポートに関する指導（テーマ選び・執筆体裁指導・文章表現力指導）

授業方法

ゼミ形式

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

文献の精読（適宜）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

大学院博士後期課程の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同じになります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

提出したレポートには、コメントを付して返却します。

教科書

The British Industrial Revolution in Global Perspective,Robert C. Allen,Cambridge University Press,2009

参考文献コメント

その他の英語文献を授業時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210134101	科目ナンバリング	121F133
講義名	◆国際金融論特論Ⅰ（学部：国際金融論（上級Ⅰ））（大学院）		
副題	Eviewsによる金融データの実証分析を学ぶ		
英文科目名	Advanced Course: International Monetary Economics Ⅰ		
担当者名	清水　順子		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

本講義は、現在の外国為替に関わる諸問題が理論的・実証的にどのように分析されているかについて教科書や最新の論文を参照しながら、論文作成上必要なデータの収集や正しい取扱い方、および実証分析を行う能力の習得を最終目的とする。具体的には、教科書「MBAのための国際金融」の内容に基づき、為替相場にかかわる理論を学びながら、実際のデータを用いてEViewsで実証分析を行い、その結果をどのように解釈するのかについて学ぶ。

到達目標

為替相場の決定理論に基づき、計量ソフトEViewsを使って為替や金融データを用いた実証分析を行い、その結果を解釈する、とうい一連の作業を習得することを到達目標とする。この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。博士後期課程の大学院生の到達目標も博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション（EVIEWSの使い方の復習）
第2回	国際収支と為替相場の基本概念
第3回	国際収支の関連データを用いた実証分析
第4回	購買力平価の実証分析
第5回	購買力平価の関連データを用いた実証分析
第6回	金利平価の実証分析
第7回	金利平価の関連データを用いた実証分析
第8回	伸縮マネタリー・アプローチの実証分析
第9回	伸縮マネタリー・アプローチの関連データを用いた実証分析
第10回	硬直マネタリー・アプローチの実証分析
第11回	硬直マネタリー・アプローチの関連データを用いた実証分析
第12回	為替相場制度の選択の実証分析
第13回	為替市場関連データを用いた実証分析
第14回	受講者の研究成果報告1
第15回	受講者の研究成果報告2

授業計画コメント

受講者の進度や希望に応じて講義内容が若干変更される場合がある。

授業方法

前半の講義で受講者の能力に応じて計量経済学の復習を行い、計量ソフトEviewsの使い方を習得する。その上で、教科書を輪読しながら、各章の内容に合わせて為替データを用いて実証分析を行い、その結果を報告する。最終的には各自がテーマを決めて行った実証分析結果を報告する。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと（1時間）。教科書の輪読担当者は、プレゼン資料を作成する（2時間）。与えられたデータを使い、Eviewsを用いて実証分析を行う（2時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	講義中に担当する輪読の資料、及び実証分析結果のまとめをレポートとして毎回評価する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点（クラス参加、グループ作業の成果等）：50％（講義内での発言を重視する。） レポート：50％（輪読や論文報告の際のプレゼンテーションを重視する。）
この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、成績評価は学部生と大学院生の差別することなく同様に行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

隔週で課題として出される実証分析について、各々が報告するが、その実証分析や結果の解釈について、講義中に受講者とともに評価し、フィードバックを行うことで、実証分析能力を向上させる。

教科書

MBAのための国際金融,小川英治・川崎健太郎,有斐閣,初,2007,4641162883

参考文献

EViewsによる計量経済分析,松浦克己/コリン・マッケンジー,東洋経済新報社,2,2012,4492314210

参考文献コメント

授業内で適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。（15名） ／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

できれば、国際金融論、国際経済学、計量経済学などの単位を既に取得、あるいは取得中であることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210222201	科目ナンバリング	121F233
講義名	国際金融論特殊研究（大学院）		
英文科目名	Special Study: International Monetary Economics		
担当者名	清水　順子		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 個人研究室		

授業概要

本講義は、現在の外国為替に関わる諸問題が理論的・実証的にどのように分析されているかについて最新の論文を参照しながら論じ、実証分析を用いた論文の書き方を学ぶことを目的とする。

到達目標

国際金融に関わるテーマで実証分析を用いた論文を書くことが到達目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション（講義の進め方）
第2回	論文の輪読（為替相場と経常収支）
第3回	論文の輪読（外国為替相場の変動）
第4回	論文の輪読（為替相場制度の選択）
第5回	論文の輪読（為替相場のパススルー）
第6回	論文の輪読（アジアの域内金融協力とアジア通貨の国際化）
第7回	論文の輪読（国際金融データの実証分析）
第8回	受講者による論文テーマ報告
第9回	論文作成指導（報告とディスカッション）
第10回	論文作成指導（報告とディスカッション）
第11回	論文作成指導（報告とディスカッション）
第12回	論文作成指導（報告とディスカッション）
第13回	論文作成指導（報告とディスカッション）
第14回	論文作成指導（報告とディスカッション）
第15回	分析結果によるポリシーインプリケーションと総括

授業計画コメント

受講者の能力や論文テーマに応じて講義内容が若干変更される場合がある。

授業方法

講義内に取上げるテーマとしては、国際資本移動、為替相場決定、通貨制度選択、為替相場のパススルーと貿易建値通貨選択、アジア域内の金融協力などである。これらに関連するテーマでの最新の論文を輪読しながら、実証分析を用いた論文の書き方を学び、後半では論文を作成する。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

先行研究の論文を事前に読み、プレゼン資料を作成する（2時間）。実証分析を行い、結果をまとめる（2時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	各自の報告資料をレポートとして評価する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点（クラス参加、グループ作業の成果等）:30%（講義内での発言を重視する。）受講者には参考文献の輪読や修士論文報告を行ってもらい、必要に応じて講義をする。受講者のプレゼン資料作成、プレゼンテーション、および講義中の参加態度を総合的に評価する。レポート:70%（受講者の輪読や論文報告のプレゼンテーションを重視する。）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

受講者による論文執筆に関する報告について、他の受講者とともに質疑応答しながら評価し、その都度フィードバックを行うことにより、論文の構成や実証分析の精度を向上させる。

教科書コメント

教科書は特に事前に指定しない。必要に応じて指示する。講義資料は適宜配布する。

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

国際金融論の知識、中級程度のミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学の知識を前提とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210225201	科目ナンバリング	121F223
講義名	労働経済学特殊研究（大学院）		
副題	国際比較からみた我が国の雇用システム		
英文科目名	Special Study: Labour Economics		
担当者名	脇坂　明		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 北1－405		

授業概要

EU諸国の研究者を中心に、雇用システムの国際比較の研究が進んでいる。まず小池和男氏の著書を理解し、英国の研究者であるマースデンの著書（翻訳）を読む。ともすれば英米の雇用システム（ややもすれば誤解にもとづき）と、それ以外の規制の多い雇用システムの国の二分法で議論するものが多いが、マースデンにもあるように、最低4つに理論的に区分できる。 なお本書の理解には、最低限、学部の労働経済学の内容の基礎知識が必要である。

到達目標

雇用システムについて理解し、自らの意見を持ち、自分の言葉で説明できるようになる。
博士後期課程の大学院生は基礎知識の会得とともに、雇用システムの研究動向や様々な分析手法を体系的に把握することで、自らの研究活動にその分析方法を応用できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の狙いとテキストの説明
第2回	小池和男の雇用システム理論の概要
第3回	長期雇用
第4回	年功賃金
第5回	企業別組合
第6回	女性の昇進意欲
第7回	青木昌彦の企業モデル
第8回	ほかの日本人による文献
第9回	マースデンの雇用システムにおける「多様な資本主義論」
第10回	マースデンが示したかったこと
第11回	単純な日本vs欧米図式による雇用システム理解の課題
第12回	女性活躍とどう関係するか
第13回	政府の介入
第14回	まとめ
第15回	自主研究

授業方法

分担者をきめテキストを輪読する。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと（約60分）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点（出席、クラス参加、グループ作業の成果等）：100％（授業時の発表と発言）
大学院生は論文の内容を適切に理解しているかどうかに重きをおいて成績評価を行う。博士後期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解するとともに、批判的な意見や関連する先行研究の調査が含まれているかどうかも成績評価を行う判断指標となる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、資料配布等を行う。

教科書

日本の雇用システム,小池和男,東洋経済新報社,1994

参考文献

雇用システムの理論―社会的多様性の比較制度分析,D・マースデン,NTT出版,2007

仕事の経済学,小池和男,東洋経済出版社,第3,2005

履修上の注意

「労働経済学」単位履修者がよいが、もし未履修の場合でも、労働経済学の基礎知識を前提とします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210300201	科目ナンバリング	121F305
講義名	ゲーム理論演習（大学院）		
副題	制度設計の研究		
英文科目名	Seminar: Game Theory		
担当者名	和光　純		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西2－203		

授業概要

複数の意思決定者が存在する状況下での意思決定を考察する数学的理論として、経済・経営分析に不可欠であるゲーム理論の基礎概念とその手法を厳密に学ぶ。本授業では特に、ゲーム理論の制度設計への応用について学習する。

到達目標

メカニズムデザインの基礎理論を習得して、制度設計の論文が読めるようになる。博士後期課程の大学院生については、基礎知識の会得とともに、ゲーム理論の研究動向や様々な分析手法を体系的に把握することで、自らの研究活動にその分析方法を応用できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	社会的選択とは
第2回	社会的選択対応と遂行メカニズム
第3回	ナッシュ遂行
第4回	マスキンの定理
第5回	支配戦略遂行と耐戦略性
第6回	公共的意思決定
第7回	投票ゲーム
第8回	ギバート・サタスウェイトの定理
第9回	バーチャル型遂行
第10回	グローブズメカニズム
第11回	交換経済における戦略的操作
第12回	ハーヴィッツの定理
第13回	公平分担問題
第14回	資源配分の性質と公理
第15回	耐戦略的メカニズムの不可能性・可能性

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

講義と履修者による分担報告により授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

報告担当の履修者は、報告用レジュメを用意すること（6時間）。報告担当でない履修者は、報告される章を熟読し質問できるように予習すること（2時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業中の議論への参加も考慮して評価する。積極性を重視する。特に、博士前期課程の大学院生については、論文の内容を適切に理解しているかどうかに重きをおいて成績評価を行う。また、博士後期課程の大学院生については、論文の内容を適切に理解するとともに、批判的な意見や関連する先行研究の調査が含まれているかどうかも成績評価において考慮する。期末試験は、レポートに変える可能性もあるが、これについては、事前に説明する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

試験やレポート問題の解答・解説をWebClass等の学内情報ネットワークを利用して行う。

教科書

マーケットデザイン入門－オークションとマッチングの経済学－,坂井豊貴,ミネルヴァ書房,第1,2010,9784623059119

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修希望者は、第1回目授業を欠席した場合でも、それ以降の授業に必ず出席して、本授業の受講方法をきちんと把握すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210301201	科目ナンバリング	121F307
講義名	計量経済学演習（大学院）		
英文科目名	Seminar: Econometrics		
担当者名	赤司　健太郎		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 土曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

計量経済学の理論的背景をなす定常過程と非定常過程の漸近理論(大標本理論)を学ぶ。教科書の数学的補論(あるいは適宜論文)を輪読する。

到達目標

博士前期課程においては計量経済学の漸近論を深く理解し、博士前後課程においては理論分析が行える基礎力を養う。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	確率空間と収束のモード
第3回	大数の法則
第4回	Lindeberg-Feller中心極限定理
第5回	Slutskyの定理
第6回	マルチンゲール中心極限定理
第7回	Cramer-Rao有効下限
第8回	セミパラメトリック有効下限
第9回	漸近的検出力
第10回	M-Estimatorの漸近的性質
第11回	ブラウン運動
第12回	伊藤積分
第13回	汎関数中心極限定理
第14回	共和分回帰の漸近的性質
第15回	まとめ

授業方法

受講生による輪読

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に輪読の担当箇所を熟読しておくこと(約60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	レジメの評価

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

発表中心なので、その都度コメントを行う。

教科書

現代時系列分析,田中勝人,岩波書店

Advanced Econometrics,T. Amemiya,Harvard University Press

参考文献

構造方程式モデルと計量経済学,国友直人,朝倉書店

Asymptotic Theory for Econometricians,H. White,Academic Press

Approximation Theorems of Mathematical Statistics,R.J. Serfling,Wiley

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

学部選択必修科目の「計量経済学」を履修済みであること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210302201	科目ナンバリング	121F335
講義名	国際貿易論演習（大学院）		
英文科目名	Seminar: Theory of International Trade		
担当者名	椋　寛		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 東2－101		

授業概要

いわゆるNew-New Trade Theory（新新貿易理論）をはじめとした最新の学術論文の輪読を通して、高度な国際貿易論の理論を身につけるとともに、同分野での論文作成の手掛かりをつかむ事を目的とする。国際貿易の分野で修士論文や博士論文を執筆したいと考えている大学院生を主な受講者として想定している。

到達目標

専門論文の読み方、研究課題の発見の仕方がわかるようになる。 国際貿易論の専門論文を執筆するために必要な知識を身につけられる。博士後期課程の大学院生は論文の内容の把握だけでなく、自らの研究活動にその分析方法を応用できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスと論文の割り当て
第2回	企業の異質性と競争（1）：Melitz and Ottaviano (2008, REStu)の報告（その1）
第3回	企業の異質性と競争（2）：Melitz and Ottaviano (2008, REStu)の報告（その2）
第4回	企業の異質性と競争（3）：ディスカッション
第5回	企業の異質性と他品種生産（1）：Mayer, Melitz and Ottaviano (2015, AER)の報告（その1）
第6回	企業の異質性と他品種生産（2）：Mayer, Melitz and Ottaviano (2015, AER)の報告（その2）
第7回	企業の異質性と他品種生産（3）：ディスカッション
第8回	企業の異質性と品質改善（1）：Antoniades (2015, JIE)の報告（その1）
第9回	企業の異質性と品質改善（2）：Antoniades (2015, JIE)の報告（その2）
第10回	企業の異質性と品質改善（3）：ディスカッション
第11回	他品種生産とフレキシブル生産システム（1）：Eckel and Neary (2010)の報告（その1）
第12回	他品種生産とフレキシブル生産システム（2）：Eckel and Neary (2010)の報告（その2）
第13回	他品種生産とフレキシブル生産システム（3）：ディスカッション
第14回	論文案の報告会
第15回	まとめ

授業計画コメント

Firm Heterogeneityを考慮した最新の貿易理論に関する論文を輪読しつつ研究課題を探索し、論文テーマを探す。論文の割り当てについては、初回の講義で受講者と相談しつつ選択する。

授業方法

一つの論文に対して、1～2人の報告者がその論文の要約を行い、次の回に関連論文も含め全体で論文の課題と今後の展開について議論を行う。学年末には国際貿易論に関する論文の作成案をレポートにして提出してもらう。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に論文を読んでくること（約3時間）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	期末レポートを課す
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	報告と議論の貢献度を加点する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解しているかどうかに重きをおいて成績評価を行う。博士後期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解するとともに、それを批判的に検討し、応用可能性を提示できるかという点も成績評価を行う判断指標となる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

受講者の報告が中心であるため、報告時に適時コメントする。提出された期末レポートにコメントし、返却する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

国際貿易論に関する上級の知識を事前に得ている事が前提となるため、大学院共通の学部上級科目の国際経済学の単位を取得済みであることが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210303201	科目ナンバリング	121F311
講義名	日本経済史演習（大学院）		
英文科目名	Seminar: History of the Japanese Economy		
担当者名	石井　晋		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 東2－101		

授業概要

日本経済史に関わるさまざまな論文をできるだけ多く読み、討論する。

到達目標

日本経済史の多様な先行研究を学び、新たに研究すべき論点を発見する能力を身につける。
博士後期課程在籍者については、論点を展開し、オリジナルな課題を発見する能力を身につけることを目ざす。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	論文の輪読と討論(1)
第3回	論文の輪読と討論(2)
第4回	論文の輪読と討論(3)
第5回	論文の輪読と討論(4)
第6回	論文の輪読と討論(5)
第7回	論文の輪読と討論(6)
第8回	論文の輪読と討論(7)
第9回	論文の輪読と討論(8)
第10回	論文の輪読と討論(9)
第11回	論文の輪読と討論(10)
第12回	論文の輪読と討論(11)
第13回	論文の輪読と討論(12)
第14回	論文の輪読と討論(13)
第15回	論文の輪読と討論(14)

授業方法

日本経済史に関する主要な論文を読んで議論する。どのような論文を読むかは、参加者と相談して決める。

準備学習（予習・復習）

事前に輪読する論文を読んでおくこと。(約3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	研究意欲

成績評価コメント

博士後期課程在籍者については、研究への取り組み意欲をより重要視する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

授業の時にフィードバックする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210304201	科目ナンバリング	121F337
講義名	西洋経済史演習（大学院）		
副題	Global Economic History		
英文科目名	Seminar: History of the Western Economies		
担当者名	眞嶋　史叙		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

This course provides an opportunity to view the theme of fashion and textile from an economic perspective, and to consider its origins, its responsive strategies, its relations with adjacent disciplines such as marketing and management. Students are encouraged to see the both sides of alternative explanations and decisions, and to highlight their respective strengths and limitations in their own words.

到達目標

In general, this course aims to prepare postgraduate students to evaluate academic works in economic history.

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction: textile history and economic history
第2回	Shepherd's paradise and queen's wardrobe: (1) the seventeenth century
第3回	Shepherd's paradise and queen's wardrobe: (2) port book records
第4回	Clockwork folly and whale fins: (1) the eighteenth century
第5回	Clockwork folly and whale fins: (2) population reconstruction
第6回	Goddess with fluttering muslin: (1) the nineteenth century
第7回	Goddess with fluttering muslin: (2) factory returns
第8回	The little black dress: (1) the roaring twenties
第9回	The little black dress: (2) social network analysis
第10回	Miniskirts and the white-coated engineers: (1) the swinging sixties
第11回	Miniskirts and the white-coated engineers: (2) family expenditure survey
第12回	Perfume and armour: (1) the turbulent noughties
第13回	Perfume and armour: (2) annual report and financial statements
第14回	Conclusion: fashion and business in historical perspective
第15回	Evaluation of academic papers in economic history and textile history

授業方法

seminar

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

Read the pre-circulated papers before class (2 hours)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

Annotated reports will be returned to the students.

参考文献

Textile History and Economic History,Negley B. Harte, Kenneth G. Ponting,Manchester University Press,1973

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210306201	科目ナンバリング	121F315
講義名	産業組織論演習（大学院）		
副題	政策のための科学		
英文科目名	Seminar: Industrial Organization		
担当者名	西村　淳一		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 東2－702		

授業概要

政府による政策・制度の設計には科学的根拠（「政策のための科学」）が必要とされている。授業では政策評価と立案に向けた科学的アプローチに関する和書・洋書のハンドブックの輪読を行い議論する。

到達目標

博士前期課程の大学院生は、「政策のための科学」における基礎知識への理解を深め、先行文献を把握し、自らの研究活動に活用できるようになることを到達目標とする。博士後期課程の大学院生は基礎知識の会得とともに、実証分析の研究動向や様々な分析手法を体系的に把握することで、自らの研究活動にその分析方法を応用できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction
第2回	Why policy implementation needs a science of science policy
第3回	Politics and the science of science policy
第4回	Sociology and the science of science policy
第5回	The economics of science and technology policy
第6回	Technologically focused policy analysis
第7回	Science of science and innovation policy
第8回	Developing a science of innovation policy internationally
第9回	Analysis of public research, industrial R&D, and commercial innovation
第10回	The current state of data on the science and engineering workforce, entrepreneurship, and innovation
第11回	Legacy and new databases for linking innovation to impact
第12回	A vision of data and analytics for the science of science policy
第13回	Science policy – A federal budgeting view
第14回	Institutional ecology and the social outcomes of scientific research
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画は暫定的であり、履修者と相談しつつトピックを決めていく。
履修者の研究進捗状況に応じて、履修者の研究発表を重視して行う。

授業方法

履修者数にもよるが、講義形式、輪読形式にて行い、参加者による議論を行う。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

テキストを事前に読み、疑問点をメモしておくこと（約4時間）。
報告者は報告資料を用意すること（約2時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解しているかどうかに重きをおいて成績評価を行う。博士後期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解するとともに、批判的な意見や関連する先行研究の調査が含まれているかどうかも成績評価を行う判断指標となる。また、博士後期課程の大学院生については、自身の研究に講義にて議論した論文の知識や分析方法などが活用されているかどうかも判断指標となる。

博士前期課程、博士後期課程の大学院生ともに以下の点は共通して成績評価に反映する。
無断欠席をしないこと。
積極的に発言する学生に高い点数をつけること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

学生の報告内容、議論について授業中にコメントを行う。

教科書コメント

ガイダンスにて提示する。

参考文献コメント

ガイダンスにて提示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210313201	科目ナンバリング	121F321
講義名	統計学演習（大学院）		
副題	Statistical causal inference		
英文科目名	Seminar: Statistics		
担当者名	福地　純一郎		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 月曜日 1時限 西2－504		

授業概要

計量経済学の複数のトピック(Quantile regression,Nonparametric estimation of regression function, Synhtetic control など)を選び、それにらに関する英語の理論および応用論文を精読する。

到達目標

英語テキストを読み、計量経済学の統計学的側面について学ぶ。博士前期課程の学生は、手法全般を理解することを目標とする。博士後期課程の学生は、さらに自分で説明や証明ができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Regression models
第3回	Nonparametric estimation of density function
第4回	Nonparametric estimation of density function
第5回	Nonparametric estimation of regression function
第6回	Nonparametric estimation of regression function
第7回	Synthetic control method
第8回	Synthetic control method
第9回	Synthetic control method
第10回	Causal inference
第11回	Causal inference
第12回	Conformal prediction
第13回	Conformal prediction
第14回	Conformal prediction
第15回	まとめ

授業方法

大学院生による輪読で進める。宿題を解き、解説する。履修者は論文を読み、不明な点については事前に調べておくこと。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

線形代数および微分積分（広義積分、重積分と変数変換公式）の十分な知識が必要である。統計学の基礎知識（確率変数、確率分布、推定、仮説検定、正規分布、カイ2乗分布、t分布、回帰分析等）を前提とするので、事前に復習をしておくこと。指定した下論文を事前に読んでおくこと。授業時間外に約120～240分の準備が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	課題

成績評価コメント

博士前期課程の学生は、手法全般の理解度に基づいて成績評価を行う。博士後期課程の学生は、それに加えて自分で説明や証明ができるかどうかが基準となる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

小テストおよび課題についてサジェスチョンと評価を書き返却する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210316201	科目ナンバリング	121F325
講義名	社会保障論演習（大学院）		
副題	社会保障に関する論文指導		
英文科目名	Seminar: Social Security		
担当者名	鈴木　亘		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 北1－405		

授業概要

社会保障に関する分野で、修士論文や博士論文を執筆しようとしている学生の論文指導を行う。書こうとする論文に関連する文献を読んだり、論文執筆に必要なスキル、ノウハウを指導したりする。

到達目標

社会保障に関する分野で、修士論文、博士論文（学部生の場合には、卒業論文、ゼミ論文）を執筆する。この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の到達目標は大学院博士前期課程の大学院生と同じである。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明、今後のスケジュールの確認
第2回	論文指導、関連文献の輪読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	論文発表、論文指導
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃

授業計画コメント

論文指導がメインであるので、ペースや内容については、受講者と相談しながら決める。

授業方法

受講者が交代で、関連論文や執筆中の論文の発表を行う。レジュメを作成してそれをもとに説明をしてもらう。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

発表者はレジュメを基に説明してもらうので、関連論文を読みこんで、レジュメを作成すること（約1時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	クラスの参加状況などから総合勘案する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点（クラス参加、グループ作業の成果等）:50%（レジュメを作っての発表や、ディスカッションへの貢献度を評価する） 積極的な発言、議論への参加を期待する レポート:50%（執筆予定の論文、もしくは執筆計画を提出してもらう）
この科目は学部3－4年生が受講することのできる大学院科目であり、学部生の成績評価は大学院博士前期課程の大学院生と同様に行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

授業中に講評を行う。

参考文献コメント

特に無し

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

計量経済学（特にミクロ計量経済学）、ミクロ経済学（価格理論、ゲーム理論、契約理論）はコースワーク程度の知識を持っていること。また、学部の社会保障論、福祉関係科目（経済学特殊講義(貧困地域再生の経済学)）程度の制度の知識を有している必要がある。必要に応じて、大学院生でも学部の授業を取っておくこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210317201	科目ナンバリング	121F327
講義名	公共経済学演習（大学院）		
英文科目名	Seminar: Public Economics		
担当者名	三井　清		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

本講義の目的は、公共経済学に関連する幾つかの研究論文について学ぶことである。

到達目標

この講義の目標は、履修者に割り当てられた研究論文をその担当者が報告し、その報告に関して参加者全員で議論することで、公共経済学に関する基本的な分析能力を身につけることである。博士後期課程の学生は既存の知識体系に対して新規性のある独自の研究を行うための能力を身につけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の報告と討論（1）
第2回	論文の報告と討論（2）
第3回	論文の報告と討論（3）
第4回	論文の報告と討論（4）
第5回	論文の報告と討論（5）
第6回	論文の報告と討論（6）
第7回	論文の報告と討論（7）
第8回	論文の報告と討論（8）
第9回	論文の報告と討論（9）
第10回	論文の報告と討論（10）
第11回	論文の報告と討論（11）
第12回	論文の報告と討論（12）
第13回	論文の報告と討論（13）
第14回	論文の報告と討論（14）
第15回	予備日

授業方法

公共経済学に関連する担当論文の報告とそれに基づく議論

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

論文を報告するときは、その報告の準備すること（5時間）。それ以外のときは、報告予定の論文を読んでおくこと（2時間）。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	60 %	発表内容と質問・討論への貢献

成績評価コメント

担当する論文の報告内容からその論文の中身についての理解度を評価する。博士後期課程の学生は、報告に際して、論文の中身に関する批判的な検討内容も評価の対象とする。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

「平常点」は最後の講義のときに伝える。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210318201	科目ナンバリング	121F349
講義名	ミクロ経済学演習（大学院）		
英文科目名	Seminar: Microeconomics		
担当者名	清水　大昌		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 月曜日 1時限 東2－104		

授業概要

大学院レベルの応用ミクロ経済学ならびに産業組織の理論を学習する。

到達目標

博士前期課程の大学院生は教科書と最新論文を用いて応用ミクロ経済学と産業組織理論を習得していく。博士後期課程の大学院生は同様に基礎知識や分析手法を習得するとともに、自らの研究活動にそれらを適応・応用できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクションとガイダンス
第2回	Chapters 1 and 2 (pp.1-39)
第3回	Chapter 3 (pp.41-74)
第4回	Chapter 3 (pp.41-74) Chapter 4 (pp.75-106)
第5回	Chapter 4 (pp.75-106)
第6回	Chapter 5 (pp.107-137)
第7回	Chapter 5 (pp.107-137)
第8回	Chapter 14 (pp.345-388)
第9回	Chapter 14 (pp.345-388)
第10回	Chapter 15 (pp.389-411)
第11回	Chapter 15 (pp.389-411)
第12回	最新論文を読む
第13回	最新論文を読む
第14回	最新論文を読む
第15回	授業のまとめ

授業方法

章ごとに参加している学生の担当を決め、発表を行う。その補足を教員が説明する。その際疑問点などを討論していく。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

初回までにAppendicesにあるGame TheoryとCompetition Policyを読み、疑問点を挙げ質問できるようにしておく。【br】2回目からは各章を読み、同様にしておく。目安時間は数学と英語の理解度によりますが、各章ごと15から20時間だと思います。なお、発表者以外も毎週事前に教科書を読んでおくことは単位修得の必須条件とします。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点（クラス参加、グループ作業の成果等）:50％ レポート:50％（学期末に課す予定です。）
博士前期課程の大学院生は教科書の内容を適切に理解しているかどうかに重きをおいて成績評価を行う。博士後期課程の大学院生はそれに加えて最新論文の内容を適切に理解するとともに、関連する先行研究を把握しこれらの論文の位置づけを理解することも成績評価を行う際の判断指標となる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

レポートに関してはコメントを付与の上返却します。

教科書

Industrial Organization: Markets and Strategies,Paul Belleflamme and Martin Peitz,Cambridge,2nd Edition,2015,978-1-107-68789-9

参考文献コメント

論文は例えば次のようなものを扱う。 Volker Nocke and Michael D. Whinston, 2010. Dynamic Merger Review. Journal of Political Economy, 118(6), pp.1200-1251.

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

第1回目にやむを得ず出席できない学生は必ずメールで連絡すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210319201	科目ナンバリング	121F351
講義名	景気循環論演習（大学院）		
英文科目名	Seminar: Theory of Business Cycles		
担当者名	滝澤　美帆		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西1－212		

授業概要

ミクロデータを用いた生産性に関する実証分析の手法について学ぶ。関連する論文の輪読も行う。

到達目標

・RやStataといった統計ソフトが使える
・データの前処理ができる
・ミクロデータを用いた実証分析を自ら行うことができる。
なお、博士後期課程の大学院生は基礎知識の会得とともに、生産関数推計に関連する研究動向や様々な分析手法を体系的に把握することで、自らの研究活動にその分析方法を応用できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション：進め方の説明
第2回	生産関数を推計する際の問題
第3回	生産関数推計に関する論文の輪読：Marschak and Andrews (1944)
第4回	生産関数推計に関する論文の輪読：Griliches and Mairesse (1995)
第5回	生産関数推計に関する論文の輪読：Olley and Pakes (1996)、Levinsohn and Petrin (2003)
第6回	生産関数推計に関する論文の輪読：Ackerberg, Caves, and Frazer (2015)
第7回	生産関数推計に関する論文の輪読：Wooldridge (2009)
第8回	生産関数推計に関する論文の輪読：Blundell and Bond (2000)
第9回	実証分析の進め方：データの入手方法
第10回	実証分析の進め方：データの前処理
第11回	実証分析の進め方：推計
第12回	受講者の研究成果の発表1
第13回	受講者の研究成果の発表2
第14回	受講者の研究成果の発表3
第15回	受講者の研究成果の発表4

授業方法

テーマに関連する研究（英語）の輪読。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

予習：毎回課題を課すので、授業までに課題を終わらせること、発表の準備をすること（1時間以上）
復習：各テーマに関して自らの言葉で説明できるように復習をすること（1時間以上）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の講義への参加態度、報告内容を成績評価に加味する。自らテーマを設定し実証分析を行い、結果をまとめられるかどうかが評価のポイントとなる。
博士前期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解しているかどうかに重きをおいて成績評価を行う。博士後期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解するとともに、批判的な意見や関連する先行研究の調査が含まれているかどうかも成績評価を行う判断指標となる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

受講者の報告内容に関してはその都度コメントをする。

教科書コメント

輪読する論文についてはその都度指示する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html

講義コード	M210323201	科目ナンバリング	121F359
講義名	時系列分析演習（大学院）		
英文科目名	Seminar:Time Series Analysis		
担当者名	田中　勝人		
単位	2	配当年次	Ｍ１年～2年 / Ｄ１年～3年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西1－203		

授業概要

中・上級レベルの計量経済学および時系列データ分析のための統計理論について学習する。履修者には、自身の研究内容に関する報告をしてもらう。

到達目標

計量経済学および時系列分析の標準的な理論を理解できること。なお、博士後期課程の大学院生は基礎知識の会得とともに、時系列分析の研究動向や様々な分析手法を体系的に把握することで、自らの研究活動にその分析方法を応用できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス（授業の進め方、内容の紹介など）
第2回	統計的推測理論ーその1
第3回	統計的推測理論ーその2
第4回	回帰モデルの大標本理論ーその1
第5回	回帰モデルの大標本理論ーその2
第6回	時系列モデルの推測理論ーその1
第7回	時系列モデルの推測理論ーその2
第8回	長期記憶時系列ーその1
第9回	長期記憶時系列ーその2
第10回	非定常時系列
第11回	単位根検定ーその1
第12回	単位根検定ーその2
第13回	研究内容報告
第14回	まとめ
第15回	理解度の確認

授業方法

ダウンロード可能な授業資料に基づいて進める。受講者には、研究内容を報告してもらう。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

事前に参考文献などを読んでおくこと（約30分）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（%）	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解しているかどうかに重きをおいて成績評価を行う。博士後期課程の大学院生は論文の内容を適切に理解するとともに、批判的な意見や関連する先行研究の調査が含まれているかどうかも成績評価を行う判断指標となる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

レポートや小テストの解答に対して、個別的にコメント、指導する。

参考文献

『現代時系列分析』,田中勝人 ,岩波書店,2006年,ISBN=4000227610

カリキュラムマップ

以下URLを参照https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html